

教育目標: ○元気な子 ○やりとげの子 ○考える子 ○思いやりのある子

めざす学校像: 保護者や地域から信頼される学校  
 めざす児童像: 子どもたちが主体的に学び活動する学校  
 めざす教師像: 教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	今後の課題	学校関係者評価記入欄
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
豊かに表現する力を育てる 教育の充実	考え、豊かに表現し、実践できる力の育成	情報を活用した主体的・協働的な学びの実現	○タブレットPCを使ったICTや、新聞、図書資料、既習事項を活用した授業改善を図り、情報活用能力の一層の伸長を図る。 ○図書館の活用、地域教材の開発や地域人材の活用を通して学ぶ楽しさと学び方を指導する。	4		3		○内容によって、児童自身が学びのツールを選択して学習を進めていけるようにしていく。 ○主体的・協働的な学びの実現に向け、効果的なICT機器活用を模索していく。 ○継続してしてきた取組を精査するとともに、新たな地域人材を活用することで、児童の学ぶ楽しさを高められるようにしていく。	・ICT活用上の課題と対策について、具体的内容を保護者等へ周知していく。 ・ICT研修に取り組んでいることは良いことである。 ・自宅でのPCの活用方法については、学校としての方向性が出せるとよい。 ・ICTの活用と並行して、書くことや対面でのコミュニケーションも大切にしていきたい。
		基礎学力の確実な定着	○東京ベーンシッドドリルを活用し、個に合わせて既習事項定着の徹底を図る。 ○習熟度別指導、算数補習教室等を実施し、個別最適な学びを充実する。 ○体力調査の考察を元に「一学級一取組」や、休み時間の外遊びの工夫や推奨を行う。	4		4		○個票を基に、児童自身が自分の苦手な内容を理解できるようにする。日常の授業を結び付け、意識して学習に取り組めるようにしていく。また、家庭とも連携し、既習事項定着の徹底を図る。 ○週1回程度クラス遊びの時間を設定するなど、推奨を引き続き行っていく。また、体力調査を分析し、児童の実態について、教職員で共通理解を図る。	・体力調査等の結果を含め、本校の現状が知りたい。体育授業だけではなく、放課後や社会体育等の取組と合わせて、体力の向上を図れるようにしていきたい。 ・習熟度別算数授業やベーンシッドドリルの取組はしっかりと続けてほしい。
保護者・地域と連携し、国分寺市や地域を共に大切に育てる子どもの育成 活動の開発	保護者・地域と連携し、国分寺市や地域を共に大切に育てる子どもの育成	学校の教育活動について保護者・地域に理解を得る。	○学校からの発信方法について、紙、メール、ブログのよさを組み合わせ、分かりやすく積極的な情報発信を行う。 ○保護者・地域からの情報や学校の課題を、コミュニティ・スクール協議会で検討し、内容を保護者・地域へ発信する。	3		4		○学校からの情報発信手段について、意図的・計画的な運営ができるようにしていく。 ○重要な内容のものを配布する際には、他の配布はしないようにするなど、配布日を調整し、保護者にとって判断しやすいようにしていく。 ○ブログの運営を組織的に行えるようにしていく。	・ペーパーレス化は良いことであるが、誰に何を発信するかによって、発信方法を精査し、今後の方針をもってほしい。 ・学校から配布の書類が多すぎて、何が重要なかが判断できない保護者が一定数いるのではないかと。
		地域・保護者の人材、教育材を生かした、郷土に根差す学習活動の開発	○コミュニティ・スクール協議会等の機能を生かし「国分寺学」を中心に、地域と連携を深める教育活動を継続・発展させる。 ○中学生ボランティア等一中学区で小中連携の取組を行う。 ○学校行事や学習活動で市制施行60周年に関連した取組を行う。	4		4		○年度末にしっかりと「国分寺学」における取組を振り返り、成果と課題について共通理解を図る。その上で、継続させたいことやさらに発展させたいことを考え、次年度の計画に盛り込めるようにする。 ○コミュニティ・スクールの機能について、教職員一人一人がさらに理解していく必要がある。これまでの取組について改めて価値を問い、これからの取組を決定していく。	・コミュニティスクールとして地域人材を生かして培ってきた取組を継続して欲しい。公民館や図書館と連携できていることはとても良い。 ・コミュニティスクール協議会において、学校の要望等を受け止め、さらに活用していける機関になると良い。
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育の充実	自尊感情の向上 自分や友達、一人一人を大切にできる子の育成	○理解教育や、スタートカリキュラムの理念を生かし、一人一人の多様性を認めた指導を行う。 ○学校教育全体を通して道徳教育に取り組む。	4		4		○理解教育と同時に、日常から児童同士がお互いを認め合える活動を意図的に設けていく。 ○各教科の学習において、活動形態や発表の方法を、ICTや紙等、自分に合わせて選択できるようにしていく。	・いつの時代も大切にしていきたい視点である。一人一人を見る難しさはあるが、学校としてしっかりと取り組んでいくことを望む。 ・せんだん学級があるのは強みである。他者を認め、多様性を学ぶ場があることに意味がある。
		学校や学級への帰属意識の高揚	○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整える。 ○縦割り班活動等の充実を図り、活動を通して異学年と交流を深め、他を思いやる気持ちを育てる。	4		4		○挨拶ができるか、できないかを全体的な評価で留めることなく、一人一人の取組に目を向け、継続して声を掛けられるようにしていく。 ○現状、縦割り班活動における6年生の負担が大きい。5年生の役割を明確にしていくなど、工夫していく。	・本校の児童は挨拶がよくできている。どこでも挨拶をしてくれる児童が多い。

